

アグリビジネス創出フェア2011

11月30日(水)から12月2日(金)までの3日間にわたり、幕張メッセ(千葉県美浜区)において、「アグリビジネス創出フェア2011」が開催されました。このフェアは、農林水産・食品産業分野の最新の技術シーズや研究成果の実用化を支援するために、研究者・技術者間の新たな交流や連携を進め、来場者の研究ニーズとのマッチング創出を図る、農林水産省が開催する技術交流展示会です。本年度のフェアには、全国の大学、企業、都道府県の試験研究機関、独立行政法人等179機関が出展し、3日間の合計で、昨年並みの26,384人の参加者がありました。本年度の特色として、東日本大震災からの復旧・復興に向けた、農林水産・食品産業分野の技術に関する展示が目を引きました。

(独)農業環境技術研究所はこのフェアの後援団体の一つとして、生分解性プラスチック分解酵素に関する研究成果など、農業現場への普及と産業界への円滑移転に力を入れている最近の研究成果を出展しました。所内の研究者だけでなく所外の共同研究者の協力も得て、実演・説明を行い、当所ブースへの訪問者数は昨年と比較して約20%増



加しました。

[ブース展示]

- 農産物中のカドミウム、残留性農薬濃度低減技術
- 生分解性プラスチック分解酵素の大量生産技術
- 温室効果ガス採取装置
- 簡易微粉碎器
- 水質浄化用タブレット型吸着剤

(連携推進室長 鳥谷 均)

「農業と環境の空間情報技術利用ガイド」を刊行

—リモートセンシング、GIS、GPSの利用法を解説—

近年、リモートセンシング(遠隔計測)、地理情報システム(GIS)、全球測位システム(GPS)の計測・情報技術が高度化し、農業分野での利用も進みつつあります。

(独)農業環境技術研究所は、農業・環境分野の空間情報技術に関する国内唯一の研究拠点として、リモートセンシングを中心に多くの研究実績と利用上のノウハウを有しています。このほど、その研究成果や関連情報を広く役立ててもらうため、「農業と環境の空間情報技術利用ガイド」(B5判141ページ、カラー図版、CD付き、非売品)を刊行しました。本書は、第I部で「リモートセンシング」、第II部で「GIS」、第III部で「GPS」をそれぞれ解説し、第IV部「資料集」には生態系計測研究グループの最近5年間の成果と論文リスト、関連Webサイトなどの情報を幅広く収録しています。

おもな読者として、農業生産や環境問題、生態系保全にかかわる研究者・学生や実務者、関連分野の教育・普及活動等にかかわる方を想定し、専門性と情報量を維持しながら、平易に解説しています。詳細は下記Webサイトで参照できます。

<http://www.niaes.affrc.go.jp/techdoc/press/111115/press111115.html>

入手を希望される方は、メール(rsgis@niaes.affrc.go.jp)かFAX(029-838-8299)で、氏名、所属、送付先とともに問い合わせてください。

(生態系計測研究領域
井上 吉雄)

